

2021年度防災教育チャレンジプラン活動報告会

# 「わがこと意識」をもつための 倉敷型防災教育

～中学生が家庭や地域の力となることを目指して～



倉敷市教育委員会

# 発表の流れ

1. 団体紹介
2. 活動報告
3. 成果と課題

# 1. 団体紹介



## <倉敷市教育委員会>

### 所在地

岡山県南部にある人口48万人の中核市

### 所管学校園

幼稚園43園 小学校63校 中学校26校  
高等学校5校 特別支援学校1校  
園児児童生徒数約43,000人



# 本市における過去の災害

## <平成30年7月豪雨災害>



- 河川の堤防の決壊… 8か所
- 浸水状況… 真備地区全体の約3割の1,200ha
- 浸水深… 最大約5m（推定）
- 死者… 52人（関連死除く）
- 住宅被害… 5977棟  
（H31.4.5現在）

（「平成30年7月豪雨災害から復興への記録～被災からの歩み～」倉敷市作成より）

# これまでの主な取組み

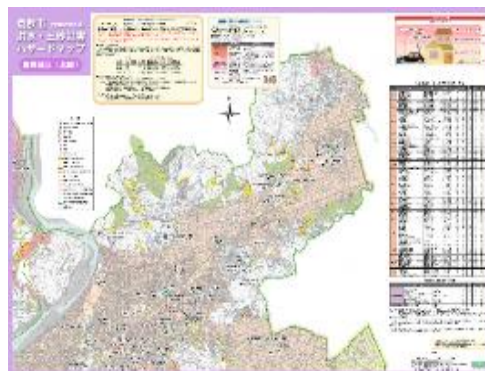
## ＜小学校の防災教育カリキュラム構築および実施＞

- 倉敷市全ての小学校で同様の学習  
→ どの学校も同じ意識で、市内で一丸となった学習へ
- 「わがこと意識」をもたせる学習  
→ 「自分の命は自分で守ろうとする姿勢」「学区の地域性を反映」等、児童のより身近な学習へ
- 家族と共に取り組む学習  
→ 児童が家庭内での率先者となり、家族と共に学ぶ学習へ

# 第3学年「防災安全マップをつくろう」



# 第5学年「災害に備える」



# 中学校の防災教育カリキュラムの構築

## ◎ 「わがこと意識」の向上と継続できる学習

→ 小学校までで高めた防災意識をさらに向上し、  
学校だけの学びで終わらせない継続的な学習へ

## ◎ 自主的・主体的な学習

→ 「自助」だけでなく「共助」という視点を持ち、学んだ知識や身に付けた力を生かして家庭や地域に向けて発信・連携し、家庭や地域の力となる学習へ



# 教育委員会

(ベースとなる学習指導案や教材作成等、  
中学校の防災教育カリキュラム案を作成)

## 小学校

学びの  
継続

相談

指導  
助言

連携  
相談

指導  
助言

## モデル校の中学校

(授業実践・体験活動)

相談

## 関係機関

助言

出前講座

助言

支援

発信

支援

## 家庭・地域

# 2. 活動報告

# ①カリキュラム案作成

発信  
実践

体験  
活動

自助

共助

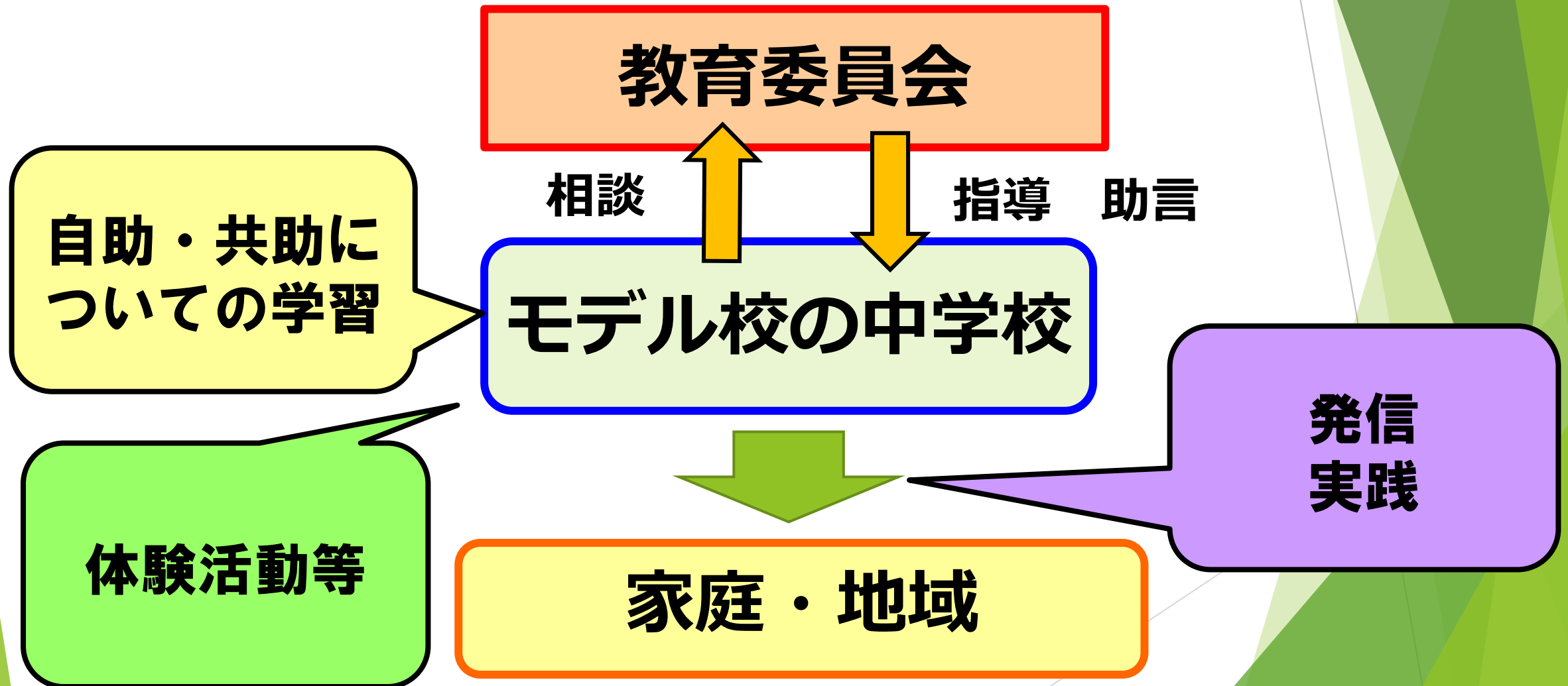
教育委員会

連携  
相談

指導  
助言

関係機関

## ②モデル校での授業実践



# 授業実践「自助」について

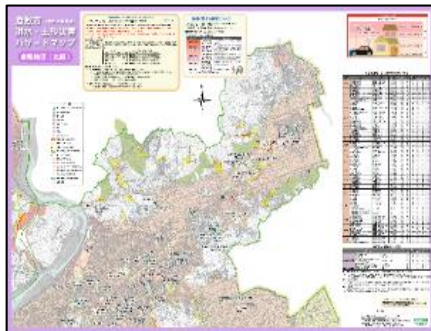
## ①過去の災害について振り返る



避難場所  
や避難経  
路の決定

ハザード  
マップや  
非常持出  
品の確認

## ②地域の災害リスクについて考える



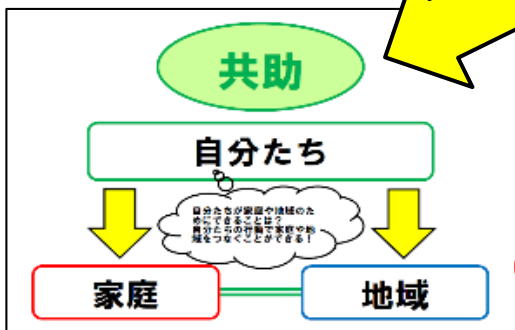
災害を自分事として捉え、事  
前の備えなど防災意識向上！

## ③自らの命を守るための備えや適切な避難行動について考える



# 授業実践「共助」について

## ①「自助」「共助」の視点を確認する



防災についての家族会議で情報共有

地域の方への避難の声かけ



「共助」の大切さに気づくとともに、学習したことを家庭で共有！！

## ②災害時に家庭や地域のために自分たちができる活動について考える



## ③実践に向けた活動の計画を立てる

The image shows a screenshot of a planning form. It has several sections with labels: '活動目的' (Purpose of activity), '実施場所' (Implementation location), '実施日時' (Implementation date and time), and '実施方法' (Implementation method). There are input fields for each section.

# 授業実践「真備町現地学習会」について

①小田川合流地点付け替え工事の現場や浸水した駅等を訪れ、被災した現地を知る。

河川工事の壮大さやリアルな現場を体感



当時の状況を想像し、被災者の気持ちに寄り添ったり、今後の自分の避難行動につなげる！

# 授業実践「真備町現地学習会」について

②復興に向けて活動されている方の講演を聞き、自分たちにできる防災・減災について考える。



被災者・復興支援者の  
当時のリアルな経験談

復興に努めている方の話を聞くことで、自分たちにもできる共助があることに改めて気付く！



# 授業実践「災害時の食事～防災食体験活動～」について

①災害時の食の課題について考え、ローリングストック法について学ぶ。

## 震災を体験した人達に聞いた食の問題

食べ物が足りず  
お腹が空いた



野菜がほとんど  
なかった

災害時の食生活に役立つ  
効果的な手立てはないのか・・・

もっと魚や肉が  
食べたかった

赤ちゃんやお年寄り、  
アレルギーの人の

災害時の食の課題  
日頃からの備え

ローリングストック法とは

「日常的に食べて買い足す」

を繰り返して災害時の食に備える方法

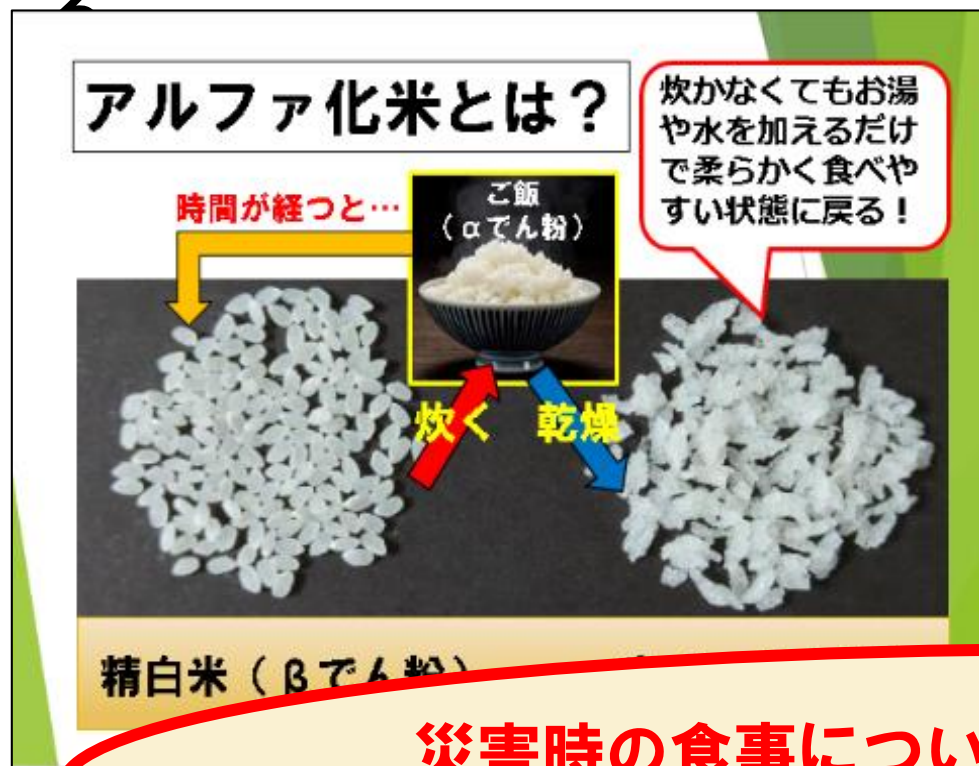


家庭の備蓄品見直しや、ローリングストック法  
の実践につながり家庭全体の防災力向上！

# 授業実践「災害時の食事～防災食体験活動～」について

②非常用保存食のアルファ化米について  
知り、給食時間にアルファ化米を食べ

災害発生時の避難  
所等での食事体験



災害時の食事について疑似体験するとともに、  
日常の食事のありがたさを再認識！

# 授業実践「東日本大震災に学ぶ会～災害伝承10年プロジェクト～」について

オンラインで災害伝承10年プロジェクトの語り部の方の講話を聞く。



避難所での生活体験や  
当時の中学生の活動



# 授業実践「東日本大震災に学ぶ会～災害伝承10年プロジェクト～」について

防災教育の取組（陸上中学校総合防災訓練：住民も参加）



■ 避難住民と一緒に体育館で行った「卒業式」



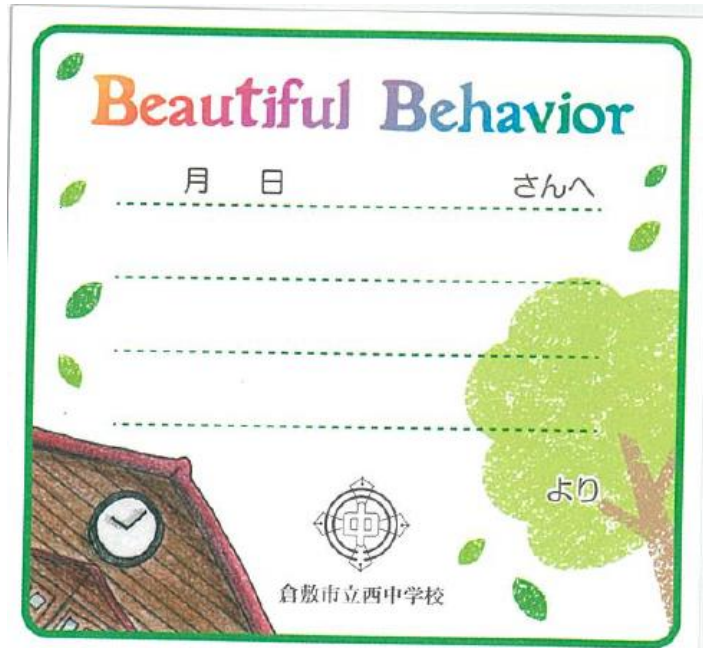
震災直後の教訓（子どもたちの取り組みが大人の力に）



水害とは違う災害種について学ぶことで、地震や津波への備えや意識の向上！  
中学生にもできることや、今日からできる家庭での備えについて学び実践へつながった！



# 授業実践「まとめ」



講演や復興支援をしている「あるく」  
の方へ応援&感謝のメッセージ



### ③カリキュラム再構築

教育委員会

振り返り  
意見

連携  
相談

連携  
相談

指導  
助言

モデル校の中学校

関係機関

地域性や発達段階を踏まえ、より主体性や家庭・地域との連携を意識したカリキュラム

# 3. 成果と課題

# 成果

- 中学校へ導入する防災教育カリキュラムの構想の明確化
- 生徒の防災に関する知識や実践力、災害に対する「わがこと意識」の向上
- 市の防災部局や関係機関との連携・協力、復興活動に取り組む地元の方々との関係構築

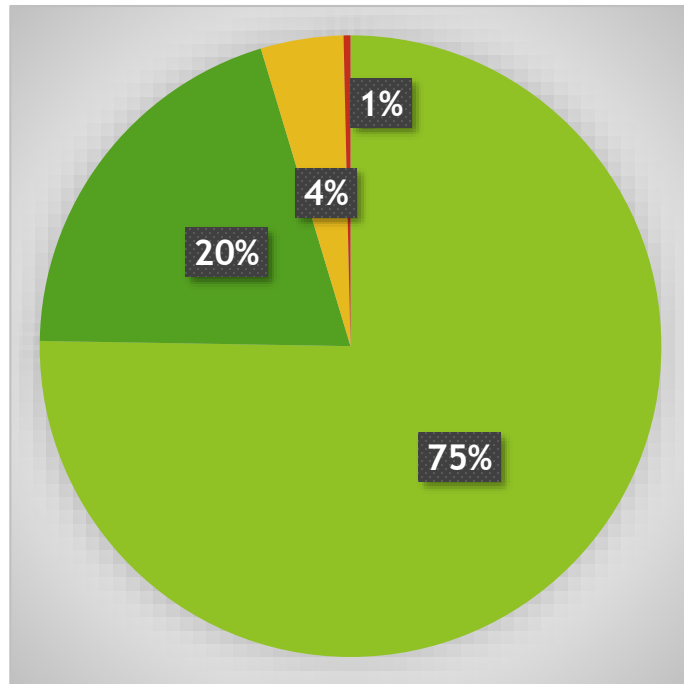


# 成果

☆防災意識を高めた生徒・・・約95%  
☆「共助」の意識や防災を通じた地域への  
参画意識を高めた生徒・・・約80%

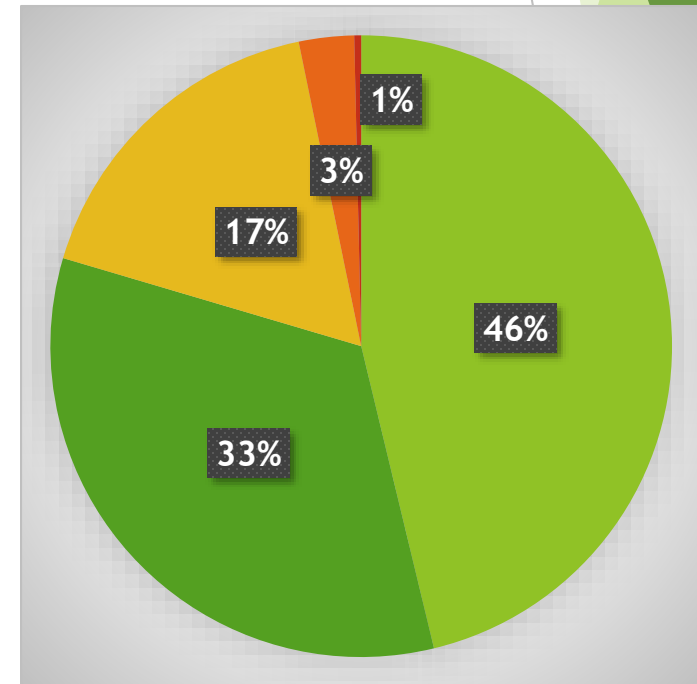
## <防災アンケート>

○ 学習を通じて防災について考えていくことの大切さを感じ、防災への意識が高まった。



■・・・とてもそう思う  
■・・・まあまあ思う  
■・・・変わらない  
■・・・あまり思わない  
■・・・ぜんぜん思わない

○ 学習をきっかけに日頃から家族と防災について話したり、地域の防災イベントに参加したり、防災についてもっと取り組んでいきたいと思った。



# 課題

- より自主的・主体的な学習となるような授業・体験活動等を盛り込んだカリキュラムの工夫
- 今回の実践で高めた防災力や「わがこと意識」を継続・活用するための学びの機会の確保
- 地域への積極的な参画

ご清聴ありがとうございました